



HFHJ Newsletter

ハビタット・ジャパン ニュースレター

第24号 2012年1月発行

世界の現場から

スリランカ内戦による国内避難民の再定住に向けて。

2011年4月、ハビタット・ジャパンは、(特活)ジャパン・プラットフォーム(JPF)の協力の下、スリランカ北部マナー県において、スリランカ内戦による国内避難民の再定住支援を開始しました。

1983年以降、総人口の7割を占め仏教徒が多いシンハラ人と、ヒन्दゥー教徒の多いタミル人との間で民族対立が勃発、内戦へと発展したスリランカ。その最前線となった北部・東部地域では多くの住民が国内避難民となり、故郷を追われました。2009年、スリランカ政府軍の軍事作戦によって内戦が終結。その多くが難民キャンプなどから帰還しました。しかし、ようやく戻った場所は荒廃し、家族と離れ離れのまま新たな生活を送らなければならない状況が今も続いています。急場しのぎで建てた家は、わらや朽木、ビニールシートなどを組み合わせただけのもので、雨風を十分に防ぐこともできません。

国内避難民のいま

これまで、ハビタット・ジャパンが住居建築を続けてきたコミュニティの一つ、マナー県ニラセネ村でも、その多くが1990年頃から避難生活を続けています。避難先は様々で、教会や刑務所が多い一方、隣県

や隣国インドの難民キャンプに逃れる家族もいます。

昨年6月にニラセネ村への帰還を果たした住民の一人、ニッカランさんの家は、内戦前、村で一番大きな家でしたが、その大きさが災いし、避難生活中に反政府軍によって軍事拠点として占拠されました。銃弾の跡とともに残る家の残骸が、当時の様子を物語っていました。また、もう一人の住民、サルミラさんは、左腕を政府軍によって撃たれ、彼女の左腕には、痛々しい傷跡が残っています。今ではわずかに軽いものしか持てない状態です。

困難を伴う作業と 現地コミュニティの絆

12月初旬、支援事業が進むマナー県ワッタカンダル村では、20世帯の壁作りが完了。セメントブロックを一つ一つ積み上げて建ち上がった家壁が続々と出現しています。11月以降、雨季の影響から週3日のペースで雨が降るようになり、建築作業が一時完全にストップ。家の土台下に使う岩石の採石が難しくなったり、強い雨で資材運搬中の車が悪路に阻まれてしまったり、ようやく積み上がったブロックも湿気で



乾かなかったりと、忍耐強く天気と向き合う日々が続きました。現場では石工や大工と議論を重ね、作業員や資材業者を増やすなど、遅れを取り戻す努力が続きました。

そんな中、ホームオーナーも継続的に作業に参加。農作業用のトラクターを所有するタスリムさんが、力作業が大変な女性ホームオーナーのスリハウマさんの瓦運びを手伝う姿が見られました。住居の建築は困難の中、作業が少し遅れている状況ですが、隣人同士で支え合おうという意識、コミュニティのかたちが育ちつつあるという、「自立」に向けた支援の成果が着実に表れ始めています。

2011年12月末現在、40軒が完成。ハビタット・ジャパンでは、スリランカが再び内戦状況に逆戻りすることがないように、住居建築を通じた国内避難民の再定住支援を継続していく予定です。

462

名のボランティアと共に、2011年3月11日以来、東日本大震災の被災地、宮城・岩手での活動を行ってきました。東日本大震災から1月11日で10カ月。新年を迎えた東北の被災地では、凍える冬空の下、明日を見つめた復興への地道な取組みが進められています。現地ニーズも緊急支援から復興支援へと移行、その一方でボランティアが激減する中、ハビタット・ジャパンでは、宮城、岩手の両県で、地域再建に向けた支援活動を、現地住民の皆さんと共に続けています。

東北の現場から

緊急支援から復興支援へ。今、求められる地域再建へ向けて。

宮城県東松島市

市 内全世帯の約96%の家屋被害を出した東松島市にて12月、70世帯以上が生活を送る仮設住宅の敷地内にある藤棚をイルミネーションで飾り付けました。翌日行われたクリスマスパーティでは、カウントダウンに合わせイルミネーションを点灯。居住者らは、「来年はきっといいことがあると思えるような、希望の光ですね。私の心の中にも光が灯ったよう。」と笑顔で語るなど、被災地に訪れたクリスマスの楽しいひと時を過ごしました。その一方、

在宅生活を送る被災家族2,400世帯に対して、ホットカーペットを配布。被災地では、応急仮設住宅が注目される傾向にありますが、実際は、「みなし仮設」と呼ばれる仮設住宅認定を受けた民間賃貸アパート等で生活する方々や、被災した自宅の2階等で暮らす在宅被災者と呼ばれる方々が多数存在します。今回、この応急仮設住宅に偏りがちな支援の動向を考慮し、東松島市、東松島復興協議会との間で調整を重ねた結果、在宅被災者への暖房器具配布

を決定。東北の厳しい冬を乗り越え、春の到来とともに、一日も早くこれまでの生活を取り戻すため、継続的な活動を行っています。

宮城県石巻市・女川町

岩 手県大船渡市での活動に続き、8月より宮城県石巻市にて支援活動を開始。多くのボランティアチームと共にがれき撤去や泥の除去といった清掃作業を行ってきました。石巻市は、大地震と津波による犠牲者が3,000人を超すなど、最も大きな被害を被った自治体の一つ。活動を行ってきた地域の中には、電気や水道などのライフライン、また壊れた橋の復旧により車両がようやく入れるようになった場所もあり、まだまだボランティアニーズが数

多く残っているという現実が石巻市にはありました。とくに地震による地盤沈下が深刻で、海に沈んでしまった土地も多く、海水を含んだ家具や衣類は通常の何倍もの重さに。悪臭を放ち、潮の満ち引きのために作業時間が限られる中で、集中して運び出しと仕分け作業を行いました。その後、行政、他NPOとの連携により、9月より11月にかけて、計3回、宮城県女川町にて仮設住宅234世帯への布団セット(554名分)の配布を行いました。今後は、仮設住

宅など、被災地域における居住環境をより良くし、少しでも快適な生活を送ることができるよう継続的な支援を行っていく予定です。※計3回の活動で配布を行わなかった174セットは、後日必要になった方々への充当分して女川町で保管。1月現在、内143セットの配布を完了しました。

岩手県大船渡市

震 災直後から現地入りし、支援活動が続けてきた岩手県大船渡市。ボランティアと共にやってきたがれきの撤去、清掃作業も終息を迎えた今、市内各地域では、復興への模索が始まっています。

復興はばむ地盤沈下

多くの被災地では、今回の大震災がもたらした地盤沈下が地域復興、再建の大きな壁になっている現実に直面してきました。大船渡市の各地域も例外ではなく、朝夕の満潮時に冠水。壊滅的被害を受けたJR大船渡駅周辺一帯では1mを超える地盤沈下も記録されており、冠水による周辺地域の生活再建（特に商店街の再開）にも大きな影響が出ています。震災前まで生活道路として使用していた地域住民はそのアクセス手段を失い、高台の限られた道路を多くの住民が唯一のアクセスとして使用するため、時に渋滞を引き起こし、また冠水地域には人が戻らず、大船渡の復興、再建を難しくしています。



震災直後の大船渡市内



10月中旬の大船渡市内

被災住宅応急修繕事業を開始

一方、被災地沿岸部では、床下や壁には穴が空き、サッシ窓も割れたままブルーシートで風雨を防ぐ、あるいはトイレや浴室が破損して不衛生な生活を送らざるを得ないなど、居住環境に関しても深刻な状況が続いています。大船渡市は、岩手県内でも住宅被害規模の割合が大きかった自治体の一つで、また被災住民の約半数が補修による入居を希望しています。しかしながら、応急修繕に関する公的支援は終了。現状、再開の予定はありません。ハビタット・ジャパンでは昨年12月より、(特活)ジャパン・プラットフォーム(JPF)の協力の下、市内で、大きく被災した住宅のうち、修繕によって再利用も可能であると考えられる被災住宅の応急的修繕を開始。被災者の居住環境改善および仮設住宅入居者等の自宅生活再開に向けた修繕努力そして自助努力に対する支援を予定しています。

～～ 東北復興支援活動経過 ～～

2011.3.11. 東日本大震災発生

2011.3.30 欧州連合(EU)と連携、栃木県に毛布1,000枚支援

2011.4.1. 先遣隊が福島県いわき市入り

2011.4.4. 学生支部、被災地復興に向け街頭募金を開始

2011.4.10 調査隊第二陣が岩手県、宮城県入り

2011.4.13. 福島県相馬市に衛生関連物資支援

2011.4.28. ボランティアチーム第一陣が岩手県大船渡市入り

2011.8.6 宮城県石巻市で支援活動を開始

2011.9.23. 宮城県女川町：仮設住宅へ布団144セットを配布

2011.10.8. 宮城県女川町：仮設住宅へ布団132セットを配布

2011.10.21. 学生支部、東北支援で全国一斉街頭募金

2011.11.5. 宮城県女川町：仮設住宅へ布団278セットを配布

2011.11.7. 学生支部、全国合同チームで支援活動に参加

2011.12.11. 宮城県東松島市：仮設住宅を灯すメリークリスマス

2011.12.23. 宮城県東松島市：在宅へ暖房器具2,400セットを配布

海外ボランティア

未曾有の大震災が日本を襲った2011年。日本から世界へ。
わたしたちが海外支援を続けた理由…

713

名(41チーム)のボランティアが、2011年、タイ、インドネシア、スリランカなど東南アジアを中心とする途上国にて住居建築支援活動を行ってきました。例年とは異なり、3月に発生した東日本大震災が、多くの海外ボランティア参加の意思を迷わせました。これまで日本は、「支援する側」として国際協力の世界で、その責務を果たしてきましたが、今回、その立場が逆転。多くの日本人が「このような状況下、海外支援に行っても良いのか？」といった心の葛藤に苦しみました。一方、今回の震災は世界から大きな注目を集め、ハビタット・ジャパンにも、米国、ドイツ、オランダといった主要な支援国から、そして隣国の韓国やこれまで「支援される側」であったタイなどからも支援を受けました。今回の出来事は、これまでの長きに渡る日本人ボランティアによる海外支援活動を通じて生まれた「絆」がもたらした世界からの支援であり、「国を越えた支援の輪が東北支援にもつながっている」ことを実感すると共に、海外支援への思いを一層深める一年となりました。

ハビびと

目 指すは「必要とされる老人になること！」。にこやかにそう語るの、内田三智子さん。現在、ハビタット・ジャパン事務局で、オフィスボランティアとして、会員管理やレター発送など、日々の業務サポートを行っている。

かつて35年に渡り民間企業で働いてきた。それまではボランティアとは無縁の世界だったが、退職後、次の仕事を見つけるまでの間だけならと、知人に誘われ、軽い気持ちで始めた「お手伝い」。あれから、早4年半が経過した。ハビタットに出会った当初、「なぜ、時間もお金もかけてボランティアに行くのだろう？」と感じたという。年の離れた若いスタッフとのやり取り。英語と日本語が飛び交

内田 三智子さん オフィスボランティア

うオフィス。これまで経験したことのない世界に、「オフィスに通い始めてすぐに、辞めようと思った」と教えてくれた。それでも、結局は続いていた。「ここには常に私の知らない世界があって追いつけないの！」と茶目つ気たつぷりに話す内田さんが始めたちよつとした「お手伝い」は、いつの間にか彼女にとってかけがえのない原動力になっていた。

そんな彼女も、昨年3月に起きた東日本大震災では「自分に何ができるのか？」と自問自答する日々を送ってきたという。現地へ行くにも、体が言うことを聞かない。東北支援を行っている団体でお手伝いしているにもかかわらず、「自分自身は何もできていないのではないか？」と引け目を感じてきた苦しい胸の内を教えてくれた。そんな中、彼女は

「些細なことでも私にできることをやろう」と心に決め、日々のサポートを行ってきたという。

この頃、周りからは「生き生きしているね」と言われるようになったと内田さん。彼女自身、人にやさしくなったと感じるという。ハビタットに来て、「なぜ、ボランティアに行くのか？」、その答えが解けてきたようにも感じた。



インターン紹介！

はじめまして。昨秋からハビタット・ジャパン事務局でインターンをしています、菅原俊之です。私は大学4年間をハビタット・ジャパンの学生支部であるハビタットMGU(明治学院大学)にて活動してきました。在学中、ハビタットの活動を通じて得た経験、人との出会いが、私の将来を考えていく中でも非常に大きな財産になっています。この経験と想いを、ハビタット・ジャパンと学生とをつなぐ橋渡し役として、後輩たちに少しでも還元したい、また今後、社会人として長期的にハビタットの活動に関わっていきたいという思いで、卒業までのわずかな期間ではありますが、インターンとして活動しています。

現在、国内啓発イベントの企画運営や東北災害支援のボランティア派遣、GVプログラムの書類作成など、学生支部として活動してきた経験を活かしながら、ユースプログラムに関わる業務サポートを



行っています。4月からは国際協力とは異なる分野の企業に就職しますが、社会に出た後も現在インターンとして学んでいる経験から、社会人になっても生活の一部として関わることのできるハビタットというものを考えていきたいと思っています。

海外ボランティア募集中

今春もタイのバンコク郊外で住居建築活動を行います。貧困や災害で苦しむ現地住民のために、その家族と一緒に協力し合って家を建てていきます。ワークは安全基準をクリアした建築現場でのみ行いますので、建築経験やスキルは一切不要です!!

ワークの他にも孤児院、幼稚園または小学校を訪問し、現地の子供たちと交流する他、バンコク市内観光、最終日にはお別れパーティーなども予定。あなたも国を越えて現地の人たちと共に汗を流し、異文化に触れ合いながら、世界の現状を学ぶ活動に参加してみませんか？詳しくはホームページで！



カレンダー発売中

2012年ハビタットカレンダー「What Will You Build?」が発売になりました。ハビタットが支援してきた世界の家族、そして子供たちの様子が満載です。ぜひ、ご自宅・職場でご活用ください！

A5版中綴カレンダー2012(全P28)

- ◆1部(500円/1部)
- ◆10部以上(300円/1部)
- ◆50部以上(200円/1部)



編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年は東北を襲った未曾有の東日本大震災、夏には世界各地で洪水が発生、忘れることのできない一年になりました。ハビタット・ジャパンでは世界に広がる各国事務所と連携し、東北支援事業を実施してまいりましたが、そのような中、日本の皆様方から多くの心温まるご支援・ご協力を頂きましたこと、深く御礼申し上げます。

2012年も引き続き、地域に根差した継続的な東北での支援活動を行うと共に、世界と日本の橋渡しとなるようスタッフ一同精進してまいります。本年も、ご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。(事務局)



〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-13-11 CHARI千駄ヶ谷4F
Tel: 03-6459-2070 / Fax: 03-6459-2071
URL: www.habitatjp.org / Email: info@habitatjp.org

発行人：小田 浩
編集人：山崎顕太郎、山本真太郎

ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン は、住宅を建てることでコミュニティを築く自立支援型NGOとして、これまで、人種、宗教、国籍に関係なく世界約100カ国で50万軒余の住宅建築支援を行ってきました。そして現在、世界中で21分に1軒のペースで住宅を建てています。